

新たなブランド産品への挑戦
ハトムギ産地の育成

生産流通部
河津 浩二

由布市では米に代わる新たなブランド産品の育成を目指し、今年度からハトムギの契約栽培に取り組んでいます。ハトムギは水田でも栽培可能で、美容・健康面で全国的に需要が高まっています。昨年度から関係機関と共に先進地研修、実需者との取引協議を行い、集落営農法人への取組推進を図った結果、約8haの産地化に成功しました。10月上旬に収穫期を迎え、単収400kg/10a超えの事例も出る等、期待の持てる結果となりました。栽培上の課題はありますが、総じて生産者の感触は良く、次年度は15haの産地化を目指します。



(農) ゆのきナチュラルファームの収穫状況

J A リース方式の臼杵
藤河内いちご団地始動

生産流通部
安井 さゆり

中部振興局では、臼杵市、J A おおいた南部事業部及び生産者と共に作成した「いちご生産部会産地ビジョン」の達成を推進しています。

その一環として、J A リース方式による臼杵藤河内いちご団地(栽培ハウス67a、育苗ハウス25a)が令和元年度に完成し、新規生産者2戸と既存生産者1戸の規模拡大が実現しました。

団地内におけるベリーの面積は32.5aで、炭酸ガス発生装置とハウス内の環境モニタリング機器も導入し、単収6t/10aを目指しています。



まもなく収穫期を迎えるいちご

コロナに負けるな！広
がる「お花の定期便」

生産流通部
佐保 学

中部局では、コロナウイルスの流行により影響を受けた県産花きの消費拡大・PRのため、毎月職場に花束が届く「お花の定期便」に本年6月から取り組んでいます。中部局が発案、大分園芸花商組合とタイアップし、花屋さんが専用花瓶にマッチするテーブルブーケを作成・配達します。初回に55束だった販売実績は5回目は248束に増加。参加企業、職場も増えています。新たに店頭でブーケをいつでも買えるフラワーパスポートもスタート。参加花店は大分市内から県内各地へと広がり、県産花きのより一層の消費拡大につながる事が期待されます。



「お花の定期便」で職場に届くテーブルブーケ

H29災害関連治山事業
が完了(津久見市)

農林基盤部
三代 樹奈

H29年の台風19号により甚大な被害を受けた津久見市では、特に緊急性の高かった徳浦の勢山地区及び四浦の江ノ浦越地区の2地区において、H29年度から治山ダム5基(勢山:3基、江ノ浦越:2基)の整備を行ってきました。今年の10月に最後の1基が完成し、災害発生から3年かけて地域の安全が図られました。

津久見市ではこの災害を受け、土砂災害への意識が高まってきています。今後も地域の安全と健全な森林の育成のため、治山事業を推進していきたいと思えます。



徳浦 勢山地区

四浦 江ノ浦越地区